

講義科目名称：作業療法学概論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
徳永 千尋			
P	金 2		

授業概要	作業療法固有の視点および作業療法学概論について学び、理学療法士として、最も身近で協業する作業療法士の定義、役割、業務、領域、対象などを知る。作業療法の臨床での展開や、自助具などにも言及し、理学療法との共通点と相違点について理解する。授業回数が8回であるため、毎週海溝ではなく、間隔を開けた日程で行う。
授業計画	<p>第1回 ガイダンスと作業療法への導入 講義概要について知る。作業療法を学ぶ上で、自己と他者の相違について確認する作業を行い、自分が感じることを他人はどう感じるか、簡易な演習により確認作業を行いディスカッションし、相違について実感し、その意見を述べる事ができる。課題1提示。</p> <p>第2回 作業療法の定義と歴史 作業療法の源流を知り現在から将来への流れを理解する。世界の医療現場や福祉現場の実際と日本での現状と課題について理解する。作業療法の法的根拠とその概念、定義、領域等について知り、他者に説明できる。</p> <p>第3回 作業療法の実践の流れ 作業療法で行われる一連の流れについて知り、領域別に特徴的な「作業」の使い方、障害や高齢により生活しづらい環境への評価とアプローチなどを理解する。</p> <p>第4回 作業療法を取り巻く環境 「作業って何？」から始まり、作業療法の範囲の広さと身体、精神、病期、地域、年代別など理学療法との相違に関する事柄も理解し、他者に説明できる。課題2提示</p> <p>第5回 中間のまとめ 作業療法や理学療法、リハビリテーションを学ぶ中で、医療従事者が働く世界の特殊性を知り、一般社会との相違を知る。配布予定の資料を読み込み、重要な語句に下線を引き、チェックポイントの確認を行い、重要点について示す事ができる。</p> <p>第6回 認知症と介護認定 認知症についてと、高齢者を対象とした介護保険制度について理解し、要介護度や寝たきり度について述べる事ができる。</p> <p>第7回 自助具のあれこれ 作業療法の現場においてよく用いられる自助具について紹介し、既製品や手作りの使い勝手を体験し、その効果等についてディスカッションし、障害別に分類する事ができる。</p> <p>第8回 作業療法学概論のまとめ 医療職として存在する作業療法と作業療法士、その役割の再確認と、理学療法士との協業、医療や福祉の現場でチームを作って展開される医療とリハビリテーションの外観を述べ、理学療法と作業療法の相似点相違点について述べる事ができる。現場の作業療法士の映像を鑑賞し、その姿、動きなどについて感想文を書く事ができる。課題3</p>
事前学習課題	作業療法という単語が1年生の使う教科書に掲載されている。それを探してメモしておくこと。
成績評価の方法・基準	定期試験（筆記）と課題3つで100%とし、60%以上をもって合格とする。課題3つ（各10%）と定期試験（筆記）70%を換算し、最終評価とする。60%に満たなかったものは、再試験として筆記試験にて行い60%以上をもって合格とする。
教科書・参考図書	理学療法学概論作業療法学概論やリハビリテーション医学の教科書を参考にしてください。参考資料は、必要な時に配付します。
教員からのメッセージ	理学療法と作業療法は兄弟みたいな関係ですが、仕事の役割が重なったり全く異なったりとやや分かりづらいところがあると思います。理容師と美容師の違いにも似ているかもしれません。その違いや面白さを伝えていく予定です。理学療法学専攻の学生が作業療法学概論を学ぶことは、リハビリテーションの専門家としての知識を含め、今後理学療法士としての生き方に影響を及ぼすものと思います。この科目を受講して、たくさん感じ、たくさん考え、たくさん話して、経験して、日々の何気ない暮らしがとても幸せで大切なことであることをわかっていただき、不自由をお持ちの方々に心から接していただきたいと思います。医療人を目指しているのですから、患者さんたちに信頼されるよう高い目標を掲げて進んでいきましょう。一緒に頑張りましょう。
オフィスアワー	金
実務経験の内容及び経験に関連する授業内容	作業療法士として34年経ちます。作業療法の現場経験が4年、教育に17年いて、本学に奉職しました。ずっと作業療法に携わっています。
ISBN	
その他	